

3-3 警備・監視

ショッピングセンター・工場などへの侵入者を追跡し撮影

セコムはドローンを活用した防犯システムを開発した。郊外型店舗やショッピングセンター、工場、倉庫などの敷地内に不審者や不審車両が侵入すると、センサーが検知し、自動的にドローンが離陸。自律飛行で不審者・車両に接近・追跡して画像を撮影する（図7）。オンライン・セキュリティシステムと組み合わせ、画像を同社に送信する。

ドローンが不審者・車両に接近するため、監視カメラやセンサーが設置されていなくても、撮影が可能だ。飛行エリアは敷地内に制限されており、人や車などとは一定の距離を保つ。ドローン自体に異常が発生した場合は、安全な場所に着陸する。



図7 セコムが開発したドローンを利用した防犯システム（出所:セコム）

海上の油漏れや産廃の不法投棄を監視

シンガポールを拠点とするベンチャー企業、ホープ・テクニクは、海上で離着水可能な監視用ドローンを開発した。シンガポール港湾局はこのドローンを巡視船などとともに、有害な油漏れの早期発見に活用する。同社によると、捜索や救助、監視だけでなく、医薬品などの物資を海上